

熱中症の救急処置に ついて

2025.6.1

有限会社岩月組

熱中症の処置について

「熱中症」とは、高温多湿な環境下において、体内の水分や塩分(ナトリウム等)バランスが崩れる、体温の調整機能が破綻する等して、発症する障害の総称であること。

「暑熱な場所」とは、**湿球黒球温度(WBGT)が28度以上又は気温が31度以上の場所**

作業等熱中症を生ずるおそれのある作業とは、**継続して1時間以上又は1日当たり4時間を超えて行われること(臨時作業も)**

熱中症の症状の重篤化を防止するためには、熱中症が生じた疑いのある者について、**早期の作業離脱**や**身体冷却**、必要に応じ、**医師の診察**等を受けさせるための**医療機関への搬送**を**迅速かつ的確に行う**ことが重要。

熱中症の5大サイン 対応の遅れは命取りです！！

立ちくらみ
筋肉の硬直

大量の発汗

頭痛・吐き気
嘔吐・倦怠感

工具を落とす
転倒する

言動がおかし
い

熱中症の救急措置 フローチャート

意識はありますか？

ある

【意識がはっきりしている場合】

涼しい環境へ避難。脱衣と冷却してください。
水分と塩分を摂取させて様子を見てください。

【意識がはっきりしていない場合】

自力で水分を飲めない時、休んでも症状が

良くならない時は医療機関へ搬送。

◎会社へ電話で報告する

(代表・専務・常務のいずれか)

ない

救急隊を要請してください。

涼しい環境へ避難。

脱衣冷却して救急隊を待ちま
しょう。

医療機関へ搬送

◎会社へ電話で報告する

(代表・専務・常務のいずれか)



救急隊を待つ間…



- 体表面を露出させ、うちわなどで冷風を送りましょう。
- 仰向けや横向きに寝かせ、足を上げて、頸部、わきの下、太ももの付け根などの大きな動静脈が通っている部位を冷却剤などで冷やしましょう。
- 作業着を脱がせ、水をかけ、全身を急速冷却しましょう。
- 経過観察中はひとりにしないようにしましょう。

○経過観察中は絶対に一人にしないでください！

○症状が良くなっても、帰宅後に急変することがあります。

○必要に応じて医療機関を受診してください。